

2020 競技上の注意

(一社) 鹿児島県サッカー協会審判委員会
鹿児島県少年サッカー連盟審判部

1. 各大会は、公益財団法人日本サッカー協会サッカー競技規則及び8人制サッカー競技規則によって行われる。
2. 競技規則の遵守、フェアプレーの精神でプレーすること。
3. プレーに関する事実についての主審の決定は、得点となったかどうか、また試合結果を含め最終である。
4. 審判員批判や中傷はしないこと。(報道関係も含む)
5. キックオフの時間の厳守。(前・後半とも遵守すること)
6. ハーフタイムのインターバルは前半終了の笛から、後半開始の笛までである。
7. ユニフォームについて
 - ① チームは、試合会場に登録したフィールド・ゴールキーパーの正・副2組のユニフォーム(袖のあるシャツ、ショーツ及びソックス)を持参しなければならない。
ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスは、フィールドプレーヤーと同系色でも良いものとする。黒・紺系のシャツの使用は認めないものとする。
 - ② 対戦するチームのユニフォーム(ゴールキーパーのユニフォームを含む)の色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、主審は、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。
 - ③ ユニフォームには、胸番号を貼付してあること。
 - ④ ソックスにテープまたはその他の材質のものを張り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
 - ⑤ アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
 - ⑥ アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
 - ⑦ すね当ては、用具に含まれるので必ず着用し、PK方式の際も終了まで外さないこと。
 - ⑧ 競技者は、スローガンや広告のついているアンダーシャツを見せてはならない。スローガンや広告を見せるためにジャージまたはシャツを脱いだ競技者は、競技会の主催者によって罰せられる。
 - ⑨ ゴールキーパーは、登録されたショーツと同色の、トラックスーツのパンツをはくことができる。着用については、主審の許可を得ること。(危険なものが装着していないもの)
 - ⑩ 競技者は、身体を保護するだけの目的のもので、かつ、自らを、また他の競技者を傷つけないものであれば、基本的な用具以外の用具を用いることができる。基本的な用具以外の用具または衣服はすべて主審によって検査され、危険でないとは判断されていなければならない。
 - ⑪ すべての装身具は厳しく禁止されており、外さなければならない。装身具をテープで覆うことは、認められない。直前に混乱しないためにも、各チームはこのことについて事前に競技者に伝えなければならない。
 - ⑫ 審判員も装身具を身に付けることはできない(時計や試合時間を計測する同様の機器は除く。)

- ⑬ 貼り選手番号は、服地と明確に区別し得る色彩（服地が縞柄の場合には台地を付ける）であり、且つ判別が容易なサイズ（番号はユニフォーム規定どおりの大きさ）のものとする。手書きによる貼り番号も認める。貼り番号を作成する時は、生地の色は問わないが、該当する選手が複数名いる場合は、その生地の色は全て同じとする。生地の4辺を縫ったもののみ使用を認める。（縫い目に指が入らないように確実に縫い付けること）
- ⑭ ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、本競技会主催者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる。

8. 選手交代について（8人制）

- ① 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。
- ② 交代は、交代ゾーンからのみ出入りできる。但し、交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点から出なければならない。代わりに入るゴールキーパーは交代ゾーンから入る。
- ③ 交代について、主審、補助審判の承認を得る必要はない。ただし、入場が早かった際に審判員が確認した場合には警告を与えられる事もあり得る。
 - ※ 防止策として、交代要員の着ているビブスを用いて、退く選手が交代ゾーンから確実に出了たあとにフィールド外にてビブスを受け渡したのち交代要員がフィールドに入る。（防寒着を着用する場合もユニフォームの上にビブスを着用すること。）
- ④ ゴールキーパーの交代は、ボールがアウトオブプレーになった時に、主審に通知し、主審の許可を得て交代を行うことができる。
- ⑤ 交代要員は、出場するしないにかかわらず、主審の権限に従い、その管轄下にある。
- ⑥ 試合の勝者を決定する方法（PK方式）においてF PがG Kに代わる場合のユニフォーム
 - ・ チーム戦術として意図的に交代する場合
F Pと同じ番号の試合に登録されているG Kユニフォームのシャツ。
 - ・ 緊急避難的にF PがG Kに代わる場合
緊急避難的対応なので、F Pと同じ番号のサブユニフォームでも可、同じ番号でなくても可、区別される色であるならユニフォームは問わない。また、F PとG Kユニフォームの交換でも可。 いずれも、シャツのみでOK。

9. ベンチからのコーチについて

- ① 試合中のコーチはベンチからのみ許される。（テクニカルエリアを設置していないとき）
- ② テクニカルエリアを設けている大会では、その範囲内で戦術的指示を伝えることができる。
- ③ その都度ただ1人の役員のみが戦術的指示を伝えることができる。監督及びその他のテクニカルエリアに入る者は、責任ある態度で行動しなければならない。
- ④ 退場を命じられた競技者、交代要員または交代して退いた競技者、あるいは退場を命じられた役員はフィールド周辺およびテクニカルエリア周辺から離れなければならない。

10. 負傷した競技者の処置について

- ① 負傷した競技者に質問をしたのち、競技者の負傷程度を判断し、競技者の安全を確保して迅速にフィールドから退出させるため、1名または最大2名のドクター等のフィールドへの入場を認めることができる。
- ② 負傷した競技者は、試合が再開されたのち、フィールドに復帰することができる。
- ③ ボールがインプレー中、負傷した競技者はタッチラインからフィールドに復帰しなければならない。ボールがアウトオブプレー中であれば、負傷した競技者はいずれの境界線からであって

も復帰することができる。

1 1. 競技中の飲水及び熱中症対策について

- ① 競技者は試合の停止中に、タッチライン及びゴールライン上でのみ飲水できる。水の入ったプラスチック製バッグやその他の容器を投げ入れてはならない。(日本協会では、タッチラインとゴールラインから1mはなれた地点に置くものとする。)
- ② 2種年代以下の試合において、暑熱下の試合では、前、後半それぞれの半分の時間を経過したころ試合の流れの中で両チームに有利、不利が生じないようなボールがアウトオブプレーのときに、30秒から1分間程度飲水できる。この時間は休憩や戦術指示のための時間ではないことに留意する。
- ③ 主審、副審もこのときに飲水して良い。
- ④ 熱中症対策ガイドラインに沿って、「Cooling Break」や「飲水タイム」を設定する。

1 2. 延長戦について

- ① 延長戦がある場合は、その前に両ベンチ前で3分程度の休憩（ベンチイン可）をとることができる。(ハーフタイムに休憩はとらない。)

1 3. 試合の勝者を決定する方法（PK方式）

- ① 試合終了時にフィールドにいた競技者のみにペナルティーマークからのキックを行う資格が与えられる。自陣ベンチ前で1分程度の飲水および指示を受けられる。(フィールドから出ないこと)
- ② 資格のある競技者は、ペナルティーマークからのキックの進行中にいつでもゴールキーパーと入れ替わることができる。(ユニフォームについては、8-⑥のとおり)

1 4. その他

- ① 審判員の靴について、審判員が通常着用するシャツの黒色と同様に黒を基本とした靴とする。
- ② 審判員のタイツについて、体調管理の上で着用は審判員の判断に任せる。但し、純然たる黒色のみ(柄、ライン等ないもの)とする。